



特集

読み聞かせが 育てるもの

優しくページをめくる音。
物語を語る声に、じっと耳を
傾ける小さなまなざし――

読み聞かせの時間は、読む人
と聞く子どもの心を結ぶ、か
けがえのないひとときです。
子どもの頃に出会った物語
は、言葉の力だけでなく、人を
思いやる心や想像する力を育
んでくれます。

広がりを見せている、家庭や
地域での読み聞かせの輪。今
号では、その魅力や効果、そし
て活動に関わる人たちの思い
を紹介します。



読む人も聞く人も 心豊かな時間

言葉の力を育てる

絵本には、豊かな表現が
たくさん詰まっています。
赤ちゃんは、語りかけの中
で言葉を覚えていくといわ
れています。読み聞かせの
後に、「これはキリンだよ。
首が長い動物だね」「この赤
くて丸いのはリンゴ。おい
しそうだね」などと語りか
けられることで言葉を覚
え、自分の気持ちを言葉に
する力も育っていきます。
読んでもらうことで、自

然に生の声や、新しい言葉
に触れ、表現が豊かになる
のです。

想像する力を広げる

絵本の世界に触れること
で、子どもたちは登場人物
の気持ちや物語の続きに思
いを巡らせます。「この後、
どうなるかな」「この子はど
んな気持ちだろう」。自分の
中で場面を思い描く時間
は、考える力や想像力を育
む大切な経験になります。

テレビや動画と違い、自
分の中でイメージを膨らま
せることができるのも、絵
本ならではの魅力であり、
楽しさでもあります。

人と人とのつながりが 心の安らぎに

絵本は、一人で読むこと
もできますが、読んでもら
うことで、より心の安らぎ
を感じることができます。
読み聞かせは、子どもが大
人と同じ時間を過ごす触れ
合いの時間となり、子ども
にとって大きな安心感につ
ながります。また、読み手で
ある大人も、絵本の世界観
を感じながら、子どもと同

じ時間を過ごすことで気持
ちが落ち着き、心が豊かに
なります。
こうした絵本との出会い
や、読み聞かせの機会は、家
庭や地域の中でも広がり
を見せています。市図書館で
は、絵本が一般書に次いで
利用が多く、子どもたちの
身近な読書活動を支えてい
ます。

